

## 第 3 回懇話会の主な意見への対応等について

## 1 議題「第 2 回懇話会の指摘事項への方向性等」に対する意見

No.	区分	主な意見	対応等
1	脱炭素	トータル（ライフサイクル）で、CO <sub>2</sub> の排出量が下がるような視点をご検討いただきたい。	設備整備補助金において、事業計画の評価にあたり温室効果ガス排出量の削減効果の視点を取り入れる。
2	対象	埋め立てされている農業用ビニールのようなものを熱利用やマテリアル利用できるように工夫ができれば良い。	北海道立総合研究機構への補助事業において農業用廃プラスチックをテーマとした研究を行っているほか、設備整備ではリサイクル設備に対する補助実績もあるところ。 廃プラスチック類は重点的にリサイクルを推進する品目としており、今後とも設備補助等を活用してリサイクルを促進する。
3	対象	最近、廃棄物を燃やして熱回収することはリサイクルと見なさないとの意見もあるが、リサイクルの幅が狭くなってしまうので検討していただきたい。	設備整備補助金では、リサイクルは再資源化又は製品化に資する行為としており、熱回収設備については、リサイクル設備と併せて整備する成果品の利用設備や設備稼働に伴い生じる廃熱回収機能を備えたリサイクル設備の整備を対象としている。
4	対象	事業継承の問題で、M & A の関係がこれから発生してくると推測されるので、今後の検討材料としてお願いしたい。	M & A 及び事業の継続を図るために必要な単純な老朽化更新の補助対象化については、今後の状況も勘案しながら検討していくこととする。
5	対象	適正処理に関連し、海のごみや漁網など、漁連が抱えている問題に役立てられるような調査事業なども必要ではないか。	漁網については産業廃棄物として設備整備の補助や研究開発等の対象となる。設備整備の補助では、漁網のリサイクル設備に対して令和 3 年度に交付決定を行っている事例がある。
6	セミナー	セミナーなどは、いろいろな事業が個々に実施しても効果がないので、バイオマスなど他の事業との連携の中で実施した方がよい。	セミナーを実施する際には、開催時期などにより他部署との連携に配慮する。

2 議題「報告書構成案・素案」に対する意見

No.	区分	主な意見	対応等
1	全体 (図表)	報告書内の図表を鮮明化した方が良い。	図表の差し替え
2	全体 (文言の整理)	(5「循環税をめぐる課題・対応方向」のページ)「資源循環」と「循環資源」の言葉の整理。	関係箇所の修正
3	循環税の現状	図4「税運用の仕組み」について ・基金残高の記載が税金の余剰しているに見える。 計画的に基金を残して次年度の繰越し金額になることがわかる工夫をしてほしい。 ・キャプションを工夫した方が良い。	図等を修正
4	循環税の現状	図4「税運用の仕組み」について ・税の運用を細かくわかりやすく1ページを使って説明できる形にした方がよい。 ・基金についての説明やどの部で何をしているかということがもう少しあっても良い。	同上
5	循環税の現状	図4「税運用の仕組み」の説明とリンクして、使い道や何件の成果があったかなど、アピールしても良い。循環税は継続すべきものであり、これからも有効に使って、道の環境保全に寄与していくとアピールをして良い。	報告書後半の参考資料に税事業の実績を掲載
6	種類別産業 廃棄物の状況	図7「再生利用量の推移」について 北海道廃棄物処理計画でも、再生利用率にふん尿を入れた場合と入れなかった場合で算出している例があり、循環税ではふん尿について対象としていないので、ふん尿以外の再生利用量に着目した方が循環税の効果としてはアピールできる。	再生利用量・率について、「動物のふん尿」を除いた図等を追加
7	排出事業者 等の意識調査	アンケートの考察で、排出事業者と処理事業者とに分けて特記すべき点があれば書いた方がよい。	排出事業者と処理業者に分けた文章、図を追加
8	排出事業者 等の意識調査	アンケートにおける排出事業者や処理事業者からの要望を課題に結びつけるにあたり、少し情報を足した方がよい。	文言追加
9	リサイクル 等の推進	リサイクル製品を作る側と実際に使う側にミスマッチがあるとうまくいかないのが、循環税でPRする方法もある。ソフト事業の中で検討してほしい。	リサイクル認定製品については、認定事業者に対する支援や認定製品等のPR事業を実施しており、効果的なPRについて、引き続き、検討していく。

No.	区分	主な意見	対応等
10	リサイクル等の推進	認定製品制度について、認定事業者へのフォローアップ（売り上げ状況、問題点など）も必要ではないか。また情報戦略、アピール戦略も考えた方がよい。	認定事業者からは毎年度、品質管理や販売状況等の報告を受けていることや、PR事業の中で認定製品の認知状況や活用状況についてアンケート調査を行っていることから、こうした情報をもとに課題を整理したうえで、より効果的なアピールにつながるよう努めてまいる。
11	リサイクル等の推進	リサイクル産業創出事業費補助金はマーケティング調査を含んでいる。実際に技術開発からマーケティングをし、最後に循環税を使ってハード整備まで行った事例がある。マッチングは大事なので進めてほしい。	引き続き、研究開発から実証実験や市場調査、設備整備に対する補助まで、段階に応じた支援策の複合的な活用を促進する。
12	リサイクル等の推進	地域循環共生圏を進めるなら、事業者からの提案をF Sで、事業に意味があるかを考えてもらいたい。事業のアイデアとして検討するきっかけになっていたら良い。	事業構想段階での事業可能性の検討について報告書に追加する。
13	人材確保・育成	業界のイメージアップに関して、労働環境の改善や福利厚生制度の充実など、人材の確保・定着の取組に係る事例集を作成するなど、他社の参考となるような優良な事例について、積極的に周知・啓発を図っていくことが大切。	人材確保等を目的としたセミナーや先進事例や優良事例などの情報提供について実施を予定する。
14	人材確保・育成	5(4)人材確保・育成について ・業界のイメージアップに使う、適正処理の継続、埋立を減らす、脱炭素など、災害廃棄物も含めて、事業者の側面支援をする仕組みになっていければよい。	脱炭素社会、地域循環共生圏の形成やSDGsなどの視点を加え、産業廃棄物の最終処分量の削減に向けて、設備や研究開発の補助、業界の人材確保やイメージアップなどの取組を実施する。
15	不法投棄	不法投棄に至る前の積替え保管等の段階で山になっている事業者などを指導していけばどうか。	産業廃棄物の収集運搬にあたり、保管量は法令で上限が定められており、事業者に対する指導は引き続き実施していく。
16	その他	道は優良産廃処理業者を推進していると聞いているので、補助金を受けるときに優位に働く形にならないか、事業者に対して計らいができれば良い。	設備補助金では、事業効果、環境への配慮、経営の安定性などの項目で評価を行っており、そのうえで優良産廃処理業者を優遇する必要があるかについては、今後の検討とする。
17	その他	災害廃棄物やPCBについて継続しなければならない。事業の継続性についてどこにもあてはまらないので、項目を1つ増やしても良い。	災害廃棄物について報告書に追加する。
18	まとめ	「6 まとめ」の「脱炭素化に向けた設備整備・地域の特性に応じた循環システムの構築」との表現を「脱炭素化を進めるとともに、その減量を図る」に検討した方がよい。	SDGsや地域循環共生圏にも触れた文章に修正する。

No.	区分	主な意見	対応等
19	まとめ	<p>「6 まとめ」について</p> <p>「北海道らしい循環型社会に向けて」のキーワードは狭いので、上位のものから落としても良いのではないか。</p> <p>一般的に報告書では冒頭で広い視点から書くものだが、この報告書でそういうものを入れるのであれば「まとめ」の部分という気がするので、北海道総合計画や環境基本計画から少しずつ言葉を落とし、循環税の検討の位置づけや必要性を言っていたけると良い。</p>	<p>「まとめ」の文章を修正する。</p>